たかむくのまちづくり

No.34

協議会広報紙

高椋の人口

世帯数	2,835戸
人口	7,694人
男	3,775人
女	3,919人

R4.11.30 現在

たかむくのまちづくり 第34号 R4.12.14

まちづくり協議会に対するご意見は
たかむくのまちづくり協議会事務局まで

〒910−0242（高椋コミュニティセンター内）
福井県坂井市丸岡町西里丸岡12-21-1
TEL（0776）68−0843
takaboko-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

防災力UP！ミニ講座 第8回

災害における「自助」について

目まぐるしく変化する最近の自然災害は、関係省庁としても事前には明確に打つ手もなく「経験したこともない～」「かつてない～」と注意を呼び掛けることで精いっぱいです。

それに対して我々住民も、「訓練のための訓練」をやる地域は確かに増えてはいるし、そのためのグッズも取り扱われています。今一度、災害対応の原点に戻り、自分が避難所運営に関わる立場の前に、「もしも被災者になったら、どのような行動が必要か考えようではありませんか。

自助7割
共助2割
公助1割

まず、〝被災者〟になる前に、災害への備えとして自助があります。

自助＝自分の力で自分の身を災害から守る。

甘く見ない＝風水害は発災しないと避難しない

正しく学ぶ＝台風や集中豪雨の特性、対処法を正しく学ぶ

つながる＝いざという時、隣近所の〝つながり〟が大切な命を守る

大規模災害が発生した時、消防署等の防災機関が十分な対応ができません。行政機関がマヒしたケースもありました。大事なことは、「自助」と「共助」、それらを支える「事前の備え」です。

私にもできる！「自助」って何？

① ハザードマップ、避難場所、避難ルートを確認する
② 家具や冷蔵庫を固定する
③ 窓にガラス飛散防止フィルムを張り付ける
④ 非常持ち出し品、備蓄品の準備をする
⑤ 住宅の耐震化、防災対策をする

次回は「共助」についてお話します。

防災士　吉田　幸憲

高椋まめ知識 No.34

○浄土三部経（福井県指定文化財）

浄土教の根本教典で、無量寿経上・下、観無量寿経、阿弥陀経の四巻に分かれている。

縦二十七cmの巻子本で、斐紙に銀泥堺線を引き墨書でかかれている。見返りには三尊迎図等が描かれている。浄土三部経の古写経が全巻揃っているのは大変めずらしい。鎌倉時代の作です。

○新田義貞公墓所（福井県指定史跡）

後醍醐天皇の命を受けて鎌倉幕府を倒した新田義貞は延元三年（一三三八）、灯明寺畷（現　福井市新田塚）で戦死し、称念寺に葬られた。徳川家は新田家の遠祖にあたることから、称念寺は徳川家・松平家から特別な保護を受けた。

元文二年（一七三七）の新田義貞公四〇〇回忌では、福井藩一〇代藩主松平宗矩は大変懇ろで、幕府からも白銀一〇〇枚を賜り盛大に挙行された。また、福井藩一五代藩主松平斉善は墓所の五輪塔を改修した。現在の墓所は、昭和二三年（一九四八）の福井震災時に倒壊し、後に改修されたものです。

（松本盛博・記）

霞交番からお知らせ

◆日没が早くなりました。自動車・自転車は早めのライト点灯を、歩行者は反射材を身につけましょう。

◆自転車は車の仲間です。交通ルールを守りましょう。
一時停止の標識（止まれと書いてある標識）がある場所では必ず一時停止してください。

◆固定電話にかかってきた電話で、お金の話が出たら詐欺を疑ってください。
注意を喚起するために、電話機に「お金の話は詐欺」等と記載しておくのもいいと思います。霞交番では、「お金の話は詐欺」と書かれたプレートを希望者に配布しております。お問い合わせは霞交番（0776−66−0110内線503）へ。

受話器に貼った例▶
ラミネーター加工してあるので、耐久性は高いです。両面テープですぐに貼ることができます。

編集後記

皆さん、八ツ口の二本松はご存知ですか。丸岡中学校の南側に位置しており、二宮金次郎の石像があるところなら知っているでしょうか。そこには、大きな二〇mはあろうかと思われる松の木があるのですが、一本の木が枝分かれしてある頃から、二本松と呼ばれるようになったみたいです。

それが今から三〇年程前に雷に打たれて、現在の一本松になったのですが、長年の風雪に耐え切れず、数年前から枯れ始め、ついには伐採する事となりました。私は数日前に知り、後世に残そうと思い、当日現場に駆け付けました。

伐採の作業を見ている中で、非常に驚いたのが、杉の木の中心部の所に大きな穴が開いていて、その中にはミツバチの巣がありました。直径が五〇cmはあろうかと思われる大きなものです。なめてみるととても甘かったです。

昔、今福にあった高椋小学校の、二宮金次郎の石像を、長い年月共に生きてきた物同志として、少しずつ切られていく松の木を、どこか物寂しく見つめている様に思えるのは、私だけでしょうか。

（三宮銀次郎）

三年ぶり 高椋ふれあいまつり開催される

九月十八日（日）高椋ふれあいまつりが、丸岡バスターミナル交流センターの芝生広場と、高椋コミュニティセンターにて開催されました。

この日は天候にも恵まれ、三年ぶりに開催されたおまつりは、沢山の人で賑わっていました。

古城まつりに参加しました

十月九日（日）丸岡古城まつりが開催されました。たかむくのまちづくり協議会では「越前丸岡武者行列」と「総踊り」に参加しました。

「総踊り」は、台風やコロナ禍で中止になり四年ぶりの参加となりました。地区で募集して集まった九名とまち協の有志が集まりました。当日は残念ながら雨天となりましたが、かえって皆の結束力が高まったようです。また来年も参加しようと言って解散しました。

来年はこの広報を読んでいる皆さんのご参加をお待ちしています。

裁判所＆検察庁見学ツアー開催される

ふれあい部会では８月３日（水）に、高椋小学校５，６年生の子どもたちと、裁判所と検察庁のお仕事見学ツアーに出かけました。

福井地方・家庭裁判所は現役の建物としては最も古いといわれています。裁判所の中に入ると、堂本印象画伯の「楽園」をもとに作られた大迫力のステンドグラスの大作が私たちを出迎えてくれました。神聖な空気を感じながら２号法廷所に案内され、私たちと裁判所の関りと役割を学びました。

普段は目にすることのない光景にみんな興味津々。裁判官の法服も見せていただき、「なぜ法服は黒いのか」など、関心をよせて質問する子どもたちに、担当の方が分かりやすく丁寧に答えてくださいました。

検察庁では、「法律って何だろう？」をテーマに、ルールを守ることの意味や大切さを学び、取調室の中の様子や、実際に使用されている防弾チョッキや手錠なども見せていただきました。

最後のアンケートでも、感じたことをしっかりと書く様子がみられ、その背中が頼もしく思えました。これからも色々なことを見て、感じて、体験してくださいね。

さいばんをする部屋に入ったり、 手じょうをさわったりするのが楽しかったです。ほかにも話を聞く部屋に入ったりするきかくを作ってくれてありがとうございました。 きちょうな体験になりました。 （T.M）

検察庁で手じょうやけいさつの人が着ている服などをさわってみたことです。 さいばん所では、 さいばんかんがすわるところやアニメを見たことが楽しかったです。 （Y.S）

検察庁とさいばん所は、 なくてはならない大切な役所で、 私たちが安心してくらせるような社会をつくるすばらしい仕事だと改めて思いました。 （M.S）

私が今回のツアーで一番印象に残ったのは、 裁判所の中です。 なぜかというと、裁判所はテレビのドラマの中などでしか見た事がなかったので、 初めて見て、とても大きくてびっくりしました。 私のしょう来のゆめは、 事む官になりたいです。 （R.H）

特に裁判所で法ていの席にすわったのが楽しかったです。 検察庁では取調べ室に入ったりしたのも楽しかったです。裁判までの流れなどが分かってとても楽しかったし、 説明を聞いてとても重要な所なんだなと思いました。 （T.O）

花育グループ　わたしの推し花

プリムラ　マラコイデス（西洋サクラソウ）

まだ寒く花の少ない冬の終わり頃から、ピンクや白などの小さな花が段になりながら次々と咲いていきます。一つ一つの小さな花はかわいらしく、段が増えた花の姿は大きく見栄えがします。

降雪の多い福井では、地植えでは茎が折れるなど株が痛みますが、日当たりの良い軒下や玄関などでは大きく育てることができます。

こぼれ種からの幼苗は涼しい所で育ち、増やすことができます。散らばったこぼれ種が雪の下で育ち、花をつけることもあります。ジュリアンやポリアンサもこの仲間です。

３年ぶりに開催された高椋ふれあいまつり、その中で歴史文化部会は、まが玉づくりの体験学習を実施しました。以前から計画していた企画がようやく実施できました。コロナ禍の中、参加人数が気になりましたが、45名の方が体験されました。福井市文化財保護センターの講師２名の方が指導に当たって頂きましたが、大盛況のため後で３名の方が応援に駆けつけてくださり、無事終了致しました。

また、去る８月上旬に、八ツ口の遺跡発掘現場見学会を開催したところ、子どもさんを含めた40人の方が室町時代の遺跡に触れ当時の暮らしに思いを馳せて頂きました。

今回私どもの企画に参加された皆様、本当にありがとうございました。今後も魅力のある事業を考えていますので、高椋地区の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

歴史文化部会長　金﨑　昭雄

西大寺お米送り開催される

歴史文化部会では、毎年奈良の西大寺へ、高椋地区でとれたお米（コシヒカリ）を奉納しています。

この事業は、高柳の「赤江庄」から西大寺へお米が献上されたとする「木簡」が、今から13年程前に発見されたことから始まりました。

それから、毎年恒例の行事となり、お米を送り続けています。そのおかげで西大寺の僧侶の人たちには、コシヒカリの生みの親が石墨博士であることを知って頂けたようです。

しかし、昨年はコロナの影響を受け、やむなくお米だけを送り西大寺には行けませんでしたが、ようやく今年、熱い思いが実り実現することができました。コロナは未だに終息には至っていませんが、４回のワクチン接種を済ませ、万全の態勢で出発しました。

西大寺に到着し境内に入り、本堂で約１時間、厳かに高椋米奉納式が執り行われました。我々参加者は順次仏前に置かれた大茶椀にお米を入れ手を合わせました。1300年前から続く高椋地区と西大寺との関わりについて想いを巡らす瞬間でした。

今回も参加者の皆さんの笑顔で楽しい旅ができたことを喜んでいます。たくさんの土産とともに、日本の深い歴史文化を感じた有意義な一日でした。　歴史文化部会　辻　晃市

舟寄遺跡発掘調査体験記（その２）

第１次舟寄遺跡発掘調査は、17年前の十郷用水パイプライン工事に伴うものでしたが、第２次発掘調査は、福井丸岡インター連絡道路の工事に伴うもので、令和４年４月から始まり、９月末日に終了しました。

舟寄遺跡は、縄文時代中期（おおむね4500年前）を中心に営まれた集落跡だそうですが、竪穴住居の遺構はそれよりももっと古い可能性もあるそうです。この集落の範囲は直径が150ｍに及ぶと推測され、遺跡としては北陸でも大きい部類に入ると思われるそうです。

また、発掘した遺跡の地中からは大量の縄文土器片、矢じり、その他にも多様な釣り針状石器や異形石器などが出土しました。昨年の舟寄遺跡で出土した弥生土器片と比較すると、縄文土器は、文様・色・厚み等々かなりの違いが見られ、中でも土器の文様には驚かされました。発掘された土器の破片を集めて復元するには、３～４年かかるそうです。どのような形になるのか完成が楽しみです。

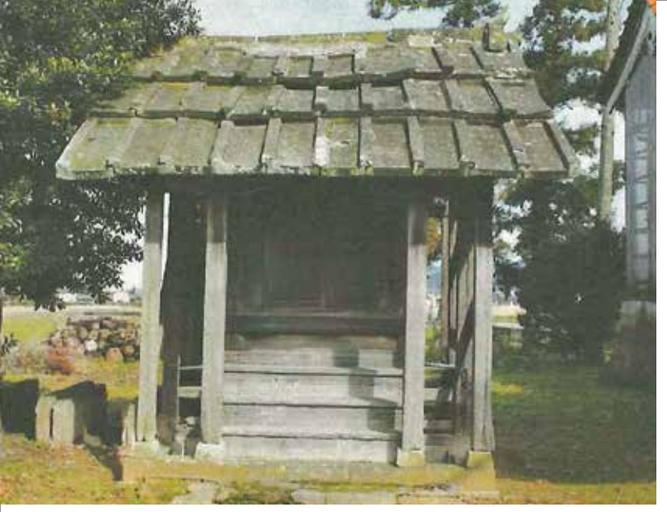
さらに竪穴住居跡も20棟発見され、遺構の大きさは直径３～５ｍと様々で、炉の跡も見つかりました。竪穴住居跡が重なっている所もあり、水害等で立て直したとも考えられるそうです。

去る９月23日に、八ツ口の発掘現場で現地説明会があり、あいにくの小雨の中、県外からの人も含め約150名の参加がありました。舟寄遺跡の報告会の後は、場所を変更し、長崎遺跡（鎌倉・室町時代）の現地調査報告会を行いました。県埋蔵文化センターの先生は、今回のように「第１級の遺跡」を２箇所同時に見ることができるのは、もうこの先ないのではないかと言われていました。

今回の遺跡調査に参加して感心したことは、石・土・木・動物の骨・皮などしかない中で、それらを利用し生活していた当時の人々の器用さやたくましさなどです。SDG`sが話題になっている今、縄文時代に生きた人々の生活を参考にする必要があるのではないかと思います。

暑い日が続いた中での遺跡発掘でしたが、貴重な体験や勉強ができました。

歴史文化部会　恩地　信享



たかむく歴史（とき）がたり　第五回

一本田中の不動堂

歴史文化部会　吉田昭宣

一本田中八幡神社不動堂は笏谷石と木材をうまく利用した文化が江戸時代にあったことを示す貴重な建物である。

この調査資料の一部を紹介する。

「一本田中八幡神社不動堂調査報告書」
令和二年五月　若越建築文化研究所
国京克己著より

一、歴史

「丸岡領寺社堂数書付帳」によれば、真言宗の寺院として延宝二年（一六七四）に下久米田村公君久山に本田重昭によって開基され、不動堂を建立したことに始まり、有馬清純公代時の元禄一二年に、一本田中村の当地に移ったとある。

「新訂越前名蹟考」によれば、「絵図記」から下久米田村の北の離れの山に不動堂があるとし、一本田中村には寺院の記載は見られない。朝日観音福通寺の元禄五年の梵鐘銘に君久山日光不動院の名前があり、国神神社の本田重明黒印状にも宝積院末寺として「君久山不動院」がある。

当神社境内には享保三年の宝篋印塔があり、その銘に「當寺中興　開山阿闍梨　寂元」とあり、寂元が不動堂を再興したことがわかる。下久米田あるいは上久米田のいずれかは別として不動院が創建され、当地へは享保時には移転していたことは確かである。

なお寛政五年ごろに不動院が無住となり、天台律宗東得寺が別当となったことで宝積院と争いとなり、翌年宝積院が不動院敷地と除地二〇石を管理するようになっていることから、この頃にはすでに当村の鎮守あるいは堂的な姿に変化していたものとみられ、この為「新訂越前名蹟考」には記載されなかったのであろう。

なお、明治初年にご神体を御開帳し、近郷近在から多くの参詣者で賑わったという言い伝えがあり、不動堂が維持管理されていたことがわかる。昭和二三年の福井地震でも倒壊しなかったという。

二、建物

不動堂は、神社敷地北東隅に建つ本拝殿の左脇に南を正面に向けて建ち、正面一・五十八ｍ奥行一・三十八ｍの一間社流造り石瓦葺きの小さな建物である。外観では棟木を受ける補強柱があり、神明造り本殿風にも見えるが、流造りの本殿である。

正面に三級の階を設け、日月の孔をあけた両開き扉を建て、身舎の両側面に切り目縁を設ける。当本殿は柱、長押、壁、天井、扉等に木目が細かく良質の幅広針葉樹（ヒバの可能性大）が全般的に使用されている。屋根は笏谷石の瓦を葺く。棟には笏谷石の鳥衾付の鬼板と石棟を置く

三、痕跡とその解釈，修理の履歴

本殿北西側の部材は風雨雪による風蝕が著しい部分で、部材が大きく取り換えられている。

身舎柱の切目縁長押下端には三方に幅三㎝程の切り欠き溝が見られることなどから、身舎四周に縁が取り付き、身車舎柱内で獣除けの格子が打たれていたことが推測される。身舎柱の風蝕は大きい。この土台を入れ替えた時期に、各所の修理入れ替えを行っている。この時期は、布基礎下にコンクリート基礎を用いていることから明治時代以降、昭和戦前、あるいは福井地震後ではないだろうか。

四，構法の特徴

当不動堂は木造の本格的な流造社殿で、屋根の重荷を当初から考えた補強性を一体化した建物で、長石板を段に葺く珍しい建物である。

五，建立年

本殿内には棟札が保管されており、棟札から不動院を本多重昭が開基、寂元快仙が開山し、元禄一〇年に有馬永純が再興したことがわかる。

一方、建築的には柱の面取り幅も大きく、江戸時代後期以前から中期に遡る可能性がある。また扉の年輪年代法の同定などからも、棟札の元禄一〇年は本殿建設年としてよい。

六，まとめ

当不動堂は建立年、その経緯、大工等も棟札や古資料よりはっきりとわかり、石瓦葺きの木造流造本殿としても珍しく貴重である。江戸時代に越前国を代表する名産品の一つとして青石（笏谷石）あげられているが、それを用いた木造建物は県内では丸岡城天守をはじめ数えるほどしかない。石材と木材をうまく利用した文化が江戸時代にあったことを示す貴重な建物である。

県内では丸岡城天守をはじめ数えるほどしかない。石材と木材をうまく利用した文化が江戸時代にあったことを示す貴重な建物である。

（次回に続く）

次回：「不動堂の梵鐘として鋳造されたはずなのに、元朝日町西田中の朝日観音堂の梵鐘になったのか？」

あんしん部会だより

高椋地区指定避難所開設訓練開催される

10月23日（日）、高椋小学校において、高椋地区指定避難所開設訓練が開催され、区長会とあんしん部会、まち協総務委員会、37人が参加しました。

この訓練は、坂井市が作成したマニュアルを基に、避難所の安全確認と、コロナ感染予防対策を想定した避難者受け入れについて行いました。避難者受け入れ訓練は会場準備段階から始まっていますが、誰が・何を・どうしたらいいか、素早い判断はなかなかできないものだということが分かりました。

このような訓練は、毎年継続的に行い、なるべく多くの人に体験してほしいと思いました。

てくてく歩こう会 開催される

10月30日（日）、あんしん部会と高椋体育協会共催事業の「てくてく歩こう会」が開催され、５７名の参加者が秋晴れの気持ちいい空の下、散策を楽しみました。

昨年に引き続き、城周辺めぐりと國神神社での参拝をセットにしたウォークラリーでしたが、今年は、閻魔大王を祀っているという「安楽寺」をコースに組み込みました。参加者の中には安楽寺を知らない人も多く、説明する住職の話に耳を傾けていました。